



1. 化学物質/調合剤および取り扱い会社

1.1 製品名称

製品名: CHEMFIX EASF

1.2 主要用途

化学物質/調合剤の用途: 接着系アンカー

1.3 取り扱い会社

会社: ユニカ株式会社、東京都千代田区岩本町2-10-6

受付窓口: 03-3864-8711(9.00 AM - 5.00 PM)

1.4 緊急連絡先:

03-3864-8711

2. 危険情報

2.1 化学物質/調合剤の分類

CHIPによる区分: R43; R52/53;

CLPによる区分: H319; H412; H317

最も重要な悪影響: 皮膚に接触する不快感がある。

水生生物に対して有害であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある

2.2 ラベル表示

CLPによるラベル表示

CHIPによるラベル表示

危険情報: H317: アレルギー性皮膚反応を起こすことがある。

H319: 目がひりひりする可能性がある。

H412: 水生生物に長期にわたり有害であることがある。

シグナル: 警告

危険絵文字: GHS07: 感嘆マーク



予防フレーズ: P264: 使用した後に皮膚を水でしっかりと洗ってください。

P280: 手袋、上着を着用する、顔、目を保護する保護具を着用する。

P272: 汚染された上着は作業場から持ち出さないように。

P273: 環境汚染を避けて廃棄してください。

P305+351+338: もし目に入った場合: 数分間水で洗い流してください。コンタクトレンズは外してください。

P302+352: もし皮膚に接触したら: 石鹸と水で良く洗い流してください。

CHIPによるラベル表示: 刺激性あり



Rフレーズ: R43: 皮膚接触により影響を及ぼす事がある。

*R52/53: 水生生物に対して有害であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある

Sフレーズ: S2: 子供の手の届かない場所に保管する

S24: 皮膚に触れないようにする

S37: 適切な手袋を着用する

2. 3 その他の危険性

その他の危険性；該当なし

PBT：本成分は、PBT成分とはみなされない。

3. 成分情報

3.1 調合剤

* 危険物質

ビニルトルエン

E I N E C S	CAS 番号	C H I P 分類	C L P 分類	濃度範囲
246-562-3 エチルビニルベンゼン	25013-15-4	-: R10; Xn: R20; Xi: R36/37/38	—	3-10%
217-126-9 2-エチレジル ベンゾアト	28106-30-9	Xn: R20; Xi: R36/37/38; N: R51/53	—	3-10%
226-641-8 過酸化ベンゾイル	5444-75-7	-: R53	水生環境慢性的 4 : H413	3-10%
202-327-6 エチレン グリコール	94-36-0	E:R3;O:R7;Xi:R36;Sens.R43	皮膚 1 : H317	1-3%
203-473-3	107-21-1	Xn:R22	4 : H302	1-3%

4. 事故時の応急処置 皮膚や目への接触、吸入または口に入ったときには、直ちに医師を呼ぶ。

4.1 応急処置の詳細

皮膚接触： 多量の石鹸水ですぐに洗浄する。皮膚に固着していなければ汚染された衣服を脱がせる。医師に相談する。

目への接触： 15分以上水道水で洗浄する。医師に相談する。

飲み込み： 意識があれば半リットルの水をすぐに飲ませる。吐かせようとしないこと。医師に相談する。

吸い込み： 不慮の蒸気吸い込みには、患者を新鮮な空気のある場所に移動させる。医師に相談する。

4.2 主たる症状、急性および遅延性

皮膚接触： 接触部がひりひりして赤くなることあり。

目への接触： ひりひりして赤くなることあり。

飲み込み： 意識がなくなることあり。

吸い込み： 意識がなくなることあり。

遅延性/急性症状：該当なし

4.3 即座に行う医学上の注意点

即座の処置：医師に本安全データを示す。

5. 消火処置

5.1 消火剤

消火剤：火災状況に適した消火剤を使用する。乾燥した粉末およびCO₂。ハロンは使用不可。

5.2 成分および調合剤に起因する特殊な危険性

暴露危険： 密封した容器が熱せられて爆発することあり。燃焼時には鼻をつく黒煙と刺激性のある発煙がある。

5.3 消化者への助言

消化者への助言：独立した空気源をもつ呼吸装置を着用する。

6. 不測の事故防止処置

6.1 身体への予防

身体への予防：身体のプロテクト詳細については、本安全データシート（SDS）の8章を参照のこと。

6.2 環境への予防

環境への予防：下水や川へ捨てないこと。

6.3 清掃および除去法

清掃法：適切な容器に移す。付近は水で洗浄する。

6.4 参照する他章

参照する他章：第13章参照。

7. 取り扱いおよび保管

7.1 安全な取り扱いへの注意点：

取り扱い注意点：熱や発火源に近づけない。

7.2 安全な保管条件

保管条件：照明器具や電気用品が発火源とならないよう確認する。涼しくて換気のよい場所に保管する。

適切な梱包：最初からの梱包状態を保つこと。

7.3 特殊な最終用途

特殊な最終用途：建設工事（SU19）

8. 暴露管理/人体保護

8.1 管理パラメータ

危険成分：過酸化ベンゾイル

作業場暴露限界

呼吸性粉塵

State	8 hour TWA	15 min. STEL	8 hour TWA	15 min. STEL
UK	5 mg/m ³	-	-	-

エチレン グリコール

UK	520mg/m ³ (vapour)	104mg/m ³ (vapour)	-	-
----	-------------------------------	-------------------------------	---	---

8.1 DNEL/PNEC 量

危険成分：エチレン グリコール

種類	暴露	量	個体群	影響
DNEL	皮膚	53 mg/kg bw/day	消費者	全体的
DNEL	皮膚	106 mg/kg bw/day	作業員	全体的
DNEL	吸入	7 mg/m ³	消費者	局所的
DNEL	吸入	35 mg/m ³	作業員	局所的

8.2 暴露管理

工学手法：第7章に記載の工学手法を確実に実施すること。

呼吸保護：蒸気への暴露を最小に抑えるため十分な換気を確保する。

手の保護：手袋を着用する。ネオプレン手袋、ニトリル手袋、バイトン手袋 等。

目の保護：保護メガネを着用する。

皮膚の保護：保護衣着用する。

環境対策：第7章に記載の工学手法を確実に実施すること。

9. 物理化学特性

9.1 物理化学特性基本情報

外観：ペースト状

色：複数色

臭い：特色のある臭い

酸化特性：酸化性あり（EC基準による）

融解性：水溶性

相対密度： 1.56

VOC g/l: 1.85

9.2 その他の情報

その他の情報： 特になし

10. 安定度と反応度

10.1 反応度

反応度：指定された輸送および保管条件下では安定している。

10.2 化学的安定度

化学的安定度：通常の状態では安定している。加熱により重合反応する可能性あり。

10.3 危険反応の可能性

危険反応：通常の輸送および保管条件では危険反応はおこらない。

10.4 禁止条件

禁止条件：熱

10.5 回避材料

回避材料：還元剤。アミン。酸。アルカリ。重金属。過酸化有機物。

10.6 有害分解物質

有害分解物質：高温にさらされると有害な臭いと煙を発生する。

11. 毒性情報

11.1 毒性情報

過酸化ベンゾイル

咽喉	マウス	LD50	5700	mg/kg
咽喉	ラット	LD50	7710	mg/kg

エチレン グリコール

皮膚	ウサギ	LD50	3500	mg/kg
咽喉	ラット	LD50	7712	mg/kg

混合の関連影響

影響	ルート	基準
増感	DRM	危険度：予測値

暴露経路と症状：

皮膚接触：接触部がひりひりして赤くなることあり。

目： ひりひりして赤くなることあり。

経口： 意識がなくなることあり。

吸入： 意識がなくなることあり。

遅延性/急性症状：該当なし

その他の情報：なし

12. 生態環境情報

12.1 毒性

毒性値：該当なし

12.2 存続性および劣化性

存続性および劣化性：下水処理プラントで生化学的劣化が期待される。

12.3 生化学的累積可能性

生化学的累積可能性：有機物中の生化学的累積はない。

12.4 土壤中の移動性

移動性：水溶性なし。

12.5 PBT および vPvB 評価結果

PBT 認識：本成分は PBT 成分とは認められない。

12.6 その他の悪影響

その他の悪影響：特になし。

13. 廃棄にたいする配慮

13.1 廃棄物処理方法

廃棄方法：適切な容器に入れて、廃棄専門業者に回収させる。少量であれば、反応硬化させて固形廃棄物として処理できる。

廃棄物コード番号：080412

包装物の廃棄：指定された埋立地に廃棄するか、他有害は器物処理法による。

注意：廃棄に関する法令の存在に注意が必要である。

14. 輸送情報

輸送クラス：本製品は輸送上のクラス分けする必要なし。

15. 法規関連情報

15.1 成分および混合物に適用される安全衛生環境規制／法令

特別な規制：該当なし

15.2 化学的安全性評価

化学的安全性評価：成分および混合物に対する安全性評価は、メーカーにより行われたことはない。

16 他の情報

他の情報：本安全データシートはEU委員会規制番号 453/2010 に従い作成した。

*印は前データシートよりの変更箇所を示す。

触媒成分の活性酸素含有量は 0.99%

第 2 項および 3 項で使用したフレーズ：H226：可燃性の液体と蒸気。

H241：火気は火災や爆発を起こすことがある。

H302：吸引すると有害。

H302+312+332：吸引すると有害、皮膚に接触又は触れる。

H304：吸引して気道に入ると悪影響を及ぼすことがある。

H315：皮膚がひりひりすることがある。

H317：アレルギー性皮膚反応を起こすことがある。

H319：目がひりひりする事がある。

H332：吸入すると有害。

H335：呼吸器系統がひりひりする。
H411：水生生物に対して長期的に影響を及ぼすことがある。
H412：水生生物に対して長期的な害を及ぼすことがある。
H413：水生生物に対して長期的な影響の原因になることがある。
R3：衝撃、摩擦、火気による爆発の恐れがある、火気またはその他の引火。
R7：火事の原因になる。
R10：発火性がある。
R20：吸入すると有害。
R22：吸引すると有害。
R36/37/38：目、呼吸器系統及び皮膚がひりひりする。
R36：目がひりひりする。
R43：皮膚接触による不快がある。
R51/53：水生生物に対して有害であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼす事がある。
R52/53：水生生物に対して有害であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼす事がある。
R53：水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼす事がある。

免責条項：上記の情報は、これまでの知識より正しいと思われるもので、すべてを含むわけではない。手引きとして使用された
い。当社は本製品の取り扱いおよび接触によるいかなる損害に対しても責任を負わないものとする。

環境への配慮：未硬化の材料を廃棄してはならない。廃棄に際しては攪拌して硬化状態とすること。

ユニカ株式会社

東京都千代田区岩本町 2-10-6

TEL: 03-3864-8711 FAX: 03-3864-7746